

卒業の日に 贈る言葉

激動の社会に旅立つ卒業生の 皆さんへ

中央大学学長 河合 久 KAWAI Hisashi

この春、中央大学学士の学位記を手にする卒業生の皆さんに対し、本学在籍中の研究、文化、スポーツ、ボランティア等の様々な分野での活躍を讃えますとともに、ご卒業を心からお祝い申し上げます。また、ご子女に対し、惜しめない支援と応援を送っておられるご家族・ご関係の方々に敬意を表しますとともに、我が事のように本日をお慶びのことに拝察いたします。ご卒業、誠にありがとうございます。

卒業生の皆さんは、コロナ禍の先行きが不透明な中で入学し、また、他国での戦争による国際情勢や円安や物価高による影響が日常生活に顕在化する中で学生生活を送ってこられました。本学はこの間にも正常な学びの環境を整える努力を惜しみませんでした。また、それにも増してこの不確実性の高い時代を皆さん自身が的確に状況判断して柔軟に対応されてきたことが学位記に結実したのだと、学長として歓喜に堪えません。不自由な環境においても、皆さんは教授陣や友人との関わりの中で、今後に迫る激動の社会にも通用する発想の転換力や創出力を身につけたのではないかと思われます。

私たちは、得意分野や当面の仕事にこだわらず、異分野との融合、そして、まったく新しい人間関係や組織間の有機的相互関係

をもって、新たな世界を共創していく時代に直面しています。日本の人口減少と少子高齢化、世界の産業構造や国際関係の急速な変容が、今日の激動する社会の背景にあることに鑑み、いかにして国力を維持・強化できるかは将来を担う皆さんの双肩にかかっています。皆さんは決して受け身であってはなりません。大学で得た知識や問題解決へのアプローチは、どのような分野のものであっても、私たちの現実世界に当てはめて解釈し、応用することが可能です。

中央大学で学び、今日ここに手にした学位を胸に、学生生活から得た成果を確認し、それを新たな世界に価値あるものとして実装できるよう心掛けていただくことは、自分の存在価値を能動的に示す最も合理的な態度だと考えます。そのことこそが本学のユニバーシティメッセージである「行動する知性。」をご自身によって体現することになるからです。

結びに当たり、皆さんには、中央大学の卒業生であるという誇りをもって、これからの人生を堂々と歩まれることを祈っております。くれぐれも健康に気を付けて、元気にご活躍されることをお祈り申し上げます。



新たな種をまく

法学部長 遠藤 研一郎 ENDO Kenichiro



学位を無事に修められ、中央大学を晴れてご卒業される皆さん、ご卒業、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

特に法学部を卒業される皆さんへ。皆さんがこの学びの場ですに入れたものは、何でしょうか。皆さんが身を置いた場所が「法学部」である以上、得たものの中心となるのは、法学における「専門的な知識」でしょう。ただ、その「専門的な知識」というものが、「単なる知識」ではなく、「汎用性のある知識」であったことを願っています。単なる知識は、やがて忘れてしまったり、陳腐化してしまったりして、使えなくなります。しかし、法学と向き合った皆さんが、学問的な思考をしっかりと手に入れたのだとすれば、それは、皆さんがどのような場所に身を置いても、そして何年経っても役立つ財産であるはずで

す。現在、日本は、そして世界は、急激にいろいろなことが変化しています。今までの常識が全く通用しない社会になりつつあります。今後さらに、その流れが加速するのかもしれませんが。しかしそのような社会の流れに、法学は親和的であるはずで

す。法学は、伝統を重んじる学問であるとともに、未来志向的な学問でもあるのです。入学から卒業までに歩んだ道のりを通じ、常に変化する社会・経済に関心を持ち、それと向き合い、民主の国の一員として自由な意見を持ち、同時に他者の意見も尊重し、少しでも社会を良い方向で変えていこうとする精神が真の意味で身につけていることを心より願っています。

皆さんは、学生生活を通じて、丁寧に「樹木」を育ててこられました。そして最終的に卒業という「果実」を手に入れました。しかし、おそらく、得られたもっと大切なのは、「果実」ではなく、その「果実」に含まれた「種」なのだと思います。その「種」を使ってまた新たな樹木を育てることができるからです。中央大学を卒業することに誇りを持ち、今後も、卒業生の誰もが、自分の立ち位置で、社会の中で今までの学びを活かしてください。末筆ながら、今後の皆さんの益々のご活躍を祈念し、はなむけの言葉とさせていただきます。

非難ではなく批判のできる人として

経済学部長 佐藤 拓也 SATO Takuya



ご卒業おめでとうございます。本日、大学での課程を修めて、晴れて卒業を迎えられた皆さんに、あらためて敬意と祝意を表します。

さて、皆さんの多くがまだ高校生だった今から5年前の春、国は、新型コロナウイルス感染症への対応として、法的根拠も科学的根拠も曖昧な一斉休校を小中高等学校に要請しました。多くの大学も、長期の出校停止やオンライン授業という対応をとり、それは皆さんが入学された後も、しばらくは学生生活への大きな制約となって続きました。私は、この一連の国や大学の対応が、皆さんの貴重な学生生活の権利の保障という観点から見て正しかったのかどうか、歴史的教訓として真摯に振り返るべきであると思っています。

ここで皆さんにお願いしたいのは、こうした困難な現実直面した時、これを「非難」するのではなく「批判」のできる人になってほしいということです。よく「あの人は他人の批判ばかりする」などと言う時、そこでは批判と非難がほぼ同義に使われています。しかし、批判と非難は違います。非難は、他人の過ちや欠点をあげつらい、問題の責任を責め立てることです。これに対して、批判とは、その問題状況を分析し、原因や事態の本質を明らかにし

て、何よりも、それを絶対的に動かし難いものと見るのではなく、それを乗り越えて、時には変革さえしようとする態度のことです。

大学の研究者の仕事は、社会現象や自然現象、またその先行研究を対象にして、上のような意味での批判をする仕事です。皆さんは、研究教育機関である大学で学問を修めました。ですから、これから自分の属する職場や地域、社会で様々な問題に直面した時に、非難ではなく、大学で身につけた批判を試みて下さい。動かないと思っていた状況や環境が、乗り越えうるものであることに気付くことも、きっと出てくるはずで

す。また、きっちり批判のできる人は、人生で困難に直面した時でも、自分がダメな人間だから問題が起きているのだと自らを非難するのではなく、客観的な事実の中に問題の原因や本質を見出すことができるはずで

す。これを分析して明らかにしようとする批判的な態度は、きっとこの先、自身をポジティブにし、精神衛生上の助けにもなってくれるはずで

ご卒業おめでとうございます

商学部長 井上 義朗 INOUE Yoshio



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。晴れてこの日を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。また、ご家族様をはじめ、これまでの長い年月つねに寄り添い、支えてこられた多くの皆様方にも、心よりお祝い申し上げます。

今期卒業される皆さんは、新型コロナウイルス感染拡大がまだ収束をみないなか入学されました。そのため、多くの授業がオンラインで行われ、サークル活動も大きく制約されるなど、従来とは大きく異なるかたちで、大学生活をスタートされたことと思います。2年次以降は、対面授業が再開されるなど、以前の大学の姿に少しずつ戻っていきましたが、皆さんは大学生活の多くを、様々な制約のもとで送らざるをえなかったと思います。

それでも皆さんは、そうした状況に屈することなく、立派に学業を修めて、今日の晴れの日を迎えられました。どうぞこの間の努力と経験に自信と自負をもって、新しい世界へと羽ばたいて行ってください。

昔、ある経済学者がこんなことを言いました。「人はなぜ未来を予測できると考えるのか。それは、未来といえども過去の延長上にあると考えるからだ。では人はなぜ、未来を予測したいと考えるのか。それは、未来は過去の単なる延長ではないと考えるか

らだ」。皆さんがこれまで大学で学んできたことは、皆さんの未来にかならずや豊かな果実をもたらすことでしょう。大学で教わったときは、よく意味がわからなかったことも、そのときが来れば、先生方がなぜあれほど力をこめて講義をしたのか、その意味がはっきりとわかるはずですよ。そういう瞬間に、皆さんはこれから何度も遭遇すると思います。大学で過ごした日々が、かならずや皆さんの未来を、しっかりと支えてくれるでしょう。

他方で皆さんの未来は、皆さん自身で作らなければならないものです。大学生活でできたこと、できなかったこと、いろいろな思いがあることと思います。その思いを礎にしながら、皆さんは自分の未来を自分で切り開くことができるのです。もちろん、他の人びととの関わりや、周りの人びとへの配慮を忘れることはできません。皆さんは大学生活を通じて、こうした事柄の大切さについても、多くを学んだことと思います。

どうぞ大学生活の思い出を糧に、思い切り張り切って、皆さんお一人お一人の未来を築いて行ってください。

皆さんの門出を祝して

理工学部長 梅田 和昇 UMEDA Kazunori



中央大学を卒業する皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの人生の中でも大きな節目となるこの時を迎えられたことを、心よりお祝いたします。

中央大学はいかがでしたか？ 勉学は面白かったですか？ 卒業論文やゼミ、大学院の研究は大変でしたか？ 課外活動に打ち込みましたか？ 友人達と楽しい時間を過ごしましたか？ 人によって、それぞれ違う学生生活だったと思いますが、皆さんの人生において充実した幸せな期間であったことを願っています。

皆さんの中には、立派な成績を上げたり、スポーツで表彰されたり、多くの研究業績を上げたりして大きな達成感を感じている方も大勢いると思います。そういった皆さんは、是非それらに誇りと自信を持って欲しいと思います。一方で、授業についていくのに苦勞して成績も思わしくなかったり、研究で十分な成果が出ず悔しい思いが残ったりした方も多くと思います。けれども、それでも皆さんは頑張り抜いてここにたどり着いた訳です。恐らく皆さんが思っている以上に、皆さんは中央大学で力をつけています。その力を是非今後の糧にして欲しいと思います。

もう一つ皆さんが中央大学で得たものは、仲間です。教室で勉学を共にした仲間、研究室で寝食を共にした仲間、サークルの仲

間。色々な仲間を皆さんは中央大学で得ることができたと思います。そういった中央大学での仲間は、皆さんの今後の人生においても、きっと皆さんを支えてくれる存在でいてくれると思います。さらに、学生時代を共にした仲間だけでなく、社会には、中央大学を卒業した方々が、驚く程大勢、様々に活躍しています。そういう方々が、きっと皆さんの助けになってくれると思います。

皆さんがこぎ出していくこの社会は、益々変化が速く、先が見通せない不確実なものになって来ています。その中で、皆さんが様々な課題や壁に出会うこともあると思います。そういう時には、皆さんが中央大学で得た力、そして中央大学の仲間とネットワークの力で、乗り越えていって欲しいと願っていますし、きっと乗り越えていけると確信しています。

人生は一度きりです。また、一瞬一瞬が人生です。日々の生活を、精一杯、そして楽しく過ごして欲しいと思います。チャレンジも是非して欲しいと思います。

皆さんの今後の人生が、充実したものとなることを、心から願っています。改めて卒業おめでとう！

学生生活を形作るもの

文学部長 緑川 晶 MIDORIKAWA Akira



この「HAKUMON Chuo」を手にしている皆さんは、就職や進学など、新たな一歩を踏み出そうとしているところだと思いますが、振り返ってみて、皆さんにとっての大学生活はどのようなものだったでしょうか？

「自分はとても充実した学生生活だった」と振り返る人もいれば、もしかしたら「自分は散々な学生生活だった」と感じている人もいるかもしれません。しかし、たとえ後者であったとしても憂うことはありません。

人間は、機械と違って、過去の記憶をテープレコーダーのように再生するのではなく、過去を捉え直したり、あるいは新たに意味づける存在と言われています。そして、この捉え直しや意味づけは、主体的な作業でもあります。

たとえば、試験に失敗した経験があり、自分には能力が足りなかったと感じたかもしれません。しかし、そのことを通じて自分を知るきっかけとなることもあれば、新しい道を歩むきっかけとなったかもしれません。あるいは、それまで支えてくれた人々のことに気づくかもしれません。

もちろん、過去そのものは変えることはできませんが、このように自分の過去に対する評価や価値観は変えることが可能です。

そして、不思議なことに、同じ出来事であっても、捉え方が変わることによって、心のありようも変わり、ひいては人生そのものまで変わることがあります。

このように、皆さんにとってのこれまでの大学生活は、これからの皆さんの歩みに委ねられているとも言えるのです。これまでの大学での生活がそのような糧となることを願っております。

最後にひとつ、世俗的なお願いをさせて下さい。皆さんが巣立った大学は、今後も必ず皆さんの人生の一部となることと思います。そのような大学をより良くするためにも、中央大学やその後輩たちに対して、応援をどうぞよろしくお願い致します。私たちが皆さんに誇れる大学であるように努めたいと思います。

卒業、おめでとうございます。

社会での諸々の決断の礎として

総合政策学部長 堤 和通 TSUTSUMI Kazumichi



卒業おめでとうございます。総合政策学部を代表し、学部での学びを修め社会に巣立つ皆さんの前途を祝します。

皆さんは政策と文化の融合を理念とし、社会科学系の学科と人文系（社会文化、倫理・哲学）の学科から成る学部で学びを進めました。このような理念と学科構成の下で、ひとつの分野の系統だった学びを軸に複眼的思考を並行させる学修の意義を皆さんは十分に理解してくれているものと思います。政策で文化を一刀両断することは安定した政策の実装という点で望ましくなく、同時に、文化的アイデンティはそれだけで一定の理念に立つ政策を否定できるものではないでしょう。加えて、政策系学科では、その機能が完全には一致、両立しない複数の制度に対応する分野がカバーされ、人文系学科では、普遍性が問われる倫理・哲学とともに異文化といわれる複数の社会文化論がカバーされています。

総合政策学部でのこのような学びは皆さんがこれからの社会生活で種々の決定を下す礎になるものです。それは社会生活で選択が求められる種々の場面では、あらかじめ定まったルールに従うことで自ずと正しい結論が導かれるわけではないからです。このことは杓子定規という言葉や、例外のないルールはないという格言が示すところでもあります。

実生活での決定にはこのような性質があるので、「決断」という言葉が充てられます。この決断が正しいものとするのは、それぞれのルールに精通しているということではなく、いつルールの例外が許容されるのか、ルールを支える種々の要求をどのように衡量するのかという判断にかかっています。そして、衡量の具合を決めるのは最終的には判断を下す人の性格、人柄であるといえ、正しい衡量に求められる性格、人柄にとって遠い他者への想像力と共感是不可欠といえるでしょう。皆さんは、大学生活の中で、交友関係やゼミでそのような力を養ったことと思いますし、政策と文化という相容れそうにない関心を並行させる学部の学びの中で、もともと自分の関心の外にある事柄への関心を喚起されたことと思います。

皆さんは社会生活での決断の素を養ったものと信じています。正しい決断には各分野に精通するという学びと併せ、遠い他者を想像し共感する力を養うという学びをさらに続け、豊かな日々を送ることを願っています。

Congratulations on your Successful Graduation of March 2025

Dean & Professor, Faculty of Global Management, Chuo University **Shun-itsu NAKASAKO**



On behalf of our faculty members and office staff, I would like to sincerely congratulate everybody who graduates from Faculty of Global Management, Chuo University (GLOMAC) this March.

Please remember that GLOMAC has been focusing on "Knowledge into Action." I hope that all of our new graduates will remember what you learned at GLOMAC and will apply them into practice by using knowledge of corporate management and the global economy.

When you have some wishes to be realized, you need to make others, especially your bosses and your colleagues, to sincerely understand that you have been actually and patiently keep trying to achieve your goals. You need to read books and journals to catch up with the current and future conditions as well. Building up experience only will not cover everything you need. Taking a further degree at a graduate school or attending seminars for professionals may

help you open a new way of life. Please have an open mind to obtain new and unnoticed knowledge and information, and please try to look at things not only from your viewpoint but also from different points of view.

Please remember that you are supported by a lot of people including your guardians, relatives, friends, and people you met at Chuo. People are one of the valuable assets you have. I would like to focus on the fact that you are not alone and a lot of people around you will be able to support you when you need some help. When you see somebody needs your help, please provide support for those.

Our faculty members and our office staff are all looking forward to seeing that you will become one of the business leaders. I would like to congratulate you again for the successful graduation in the highest term.

引き継ぎ、〈iTL〉の伝統を！

国際情報学部長 **平野 晋** HIRANO Susumu



国際情報学部三期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。学部創設・運営の責任者として、この日を迎えることが出来たことを心よりお喜び申し上げます。

ところで〈情報の仕組み〉をとりまく環境は、皆さんの在学中にも目まぐるしく変化しました。皆さんが1年生から2年生の頃には、〈メタバース〉が世間の注目を浴びていたことを、皆さんも未だ覚えているでしょう。しかし、それ程に盛り上がった〈メタバース〉人気も、皆さんが3年生に成る頃にはすっかり影を潜めて、〈生成AI〉が世界の耳目を全て奪ってしまいました。そのように非常に短期間に変化する情報の仕組みに、皆さんはものおじすることなく取り組んで、新たな〈情報の法律〉の在り方についての思考を深めてくれたことと思います。そのような新興技術の出現に対応できる皆さんの基礎力と応用力を、社会や大学院等に於いて存分に発揮して活躍して欲しいと私達教職員一同は、心より願っております。

最後に、有名なアメリカの法学者ロスコウ・パウンドの言葉を皆さんにお伝え致します。それは私の第二の母校である——第一の母校はもちろん中大ですが（笑）——コーネル大学ロースクールの模擬法廷に掲げられていた以下の名言です：

"Law must be stable and yet it cannot stand still."

法はぶれてはならないけれども、止まることもできないのである。

この言葉同様に、皆さんがiTLを卒業した事実は、「情報の仕組みと法の統合知」に基づく能力を有しているという、決してぶれることのない証です。ですが皆さんは、ここで止まることもできません。法が時代の変化に応じて進化してきたように、皆さんの能力も変化する社会の要請に応じていかねばなりません。例えば将来、様々な職業の中の色々なタスク（業務）を、ヒトではなくAIが担うと予測されていますから、皆さんはそのような社会の変化に伴う、これ迄とは異なるヒトに求められる能力を発揮できる人材であり続けることが求められます。ですから「卒業」は、皆さんの学習や進化の「終わり」ではなく、今後の更なる進化の「始まり」なのです。

ところでコーネル大では卒業式を、「始まり」を意味する“commencement”と呼んでいます。皆さんも、ぶれることのない能力を十二分に活かして、立ち止まることなく次のステップの「始まり」を歩み出して下さい！